

奨励品種

水稻（うるち）「岩手34号」

（農試 県北分場 技術部）

1. 来歴

「岩手34号」は早生の耐冷良食味品種の育成を目標として、昭和59年岩手県立農業試験場において「コチミノリ」を母とし、「庄内32号」（のちの「はなの舞」）を父として交配、育成された本県初のオリジナル水稻品種である。平成2年から奨励品種決定予備調査、平成3年から奨励品種決定本調査（本場では平成4年から）ならびに現地試験に供試して収量および特性を検討した結果有望と認められた。

2. 特性の概要

- (1) 出穂・成熟期とも「たかねみのり」と「いわて26」のほぼ中間の「早生の早」である。
- (2) 稈長、穂数は「たかねみのり」並みの中稈の偏穂数型品種である。
- (3) 2次枝穂の着穂が多く、穂の粒着密度も「たかねみのり」より高いが、一穂粒数は「たかねみのり」並みである。
- (4) 収量は「たかねみのり」並みからやや多収である。
- (5) 障害型耐冷性は「いわて21」より強く、「たかねみのり」並みの「強」である。
- (6) 耐倒伏性は「たかねみのり」並みの「やや強」である。
- (7) いもち病真性抵抗性遺伝子型はPi-iと推定され、圃場抵抗性は葉・穂いもちとも「やや強」であるが、「たかねみのり」よりやや弱い。
- (8) 玄米は「たかねみのり」よりやや大きく、外観品質はほぼ「たかねみのり」並みである。
- (9) 「たかねみのり」より搗精歩留まりが高く、精米白度が高い。
- (10) 食味評価は「たかねみのり」よりまさり、「あきたこまち」に近い。

3. 奨励品種に採用する理由

- (1) 近年の米穀情勢において良食味米生産が重要視されており、県中北部においても一層の良質・良食味米の安定生産が課題となっている。
- (2) 早生系統のなかで特に食味が優れ、搗精歩留まりが高く精米白度が高いなどの特性を持ち、「たかねみのり」並みの品質・耐冷性を備えている。
- (3) 本品種の導入により、県中北部産米の食味・品質向上と作柄安定が期待される。

4. 栽培可能地帯

- (1) 県中北部の標高が概ね250～350mの地帯、および沿岸北部やませ地帯。
- (2) 栽培可能面積はおよそ5,000ha。

5. 栽培上の留意事項

- (1) 催芽時間が長くなる傾向にあるので浸種・催芽を十分に行い加温出芽を励行する。

- (2) 籾数確保のため、栽植密度を落とさないようにする。穂数はとれやすいが、一穂籾数が少ないため、健苗育成や初期水管理に留意し、早期の有効茎確保に努める。
- (4) 基肥は「たかねみのり」並みとする。追肥は幼穂形成期を重点とし、量は窒素成分で2kg/10a程度を基本とする。
- (5) 刈取は当面、登熟積算温度で950～1100℃を目安とするが、実際の登熟状況を観察しながら、黄化籾割合80～90%を基準として、早刈や刈遅れとならないようにする。
- (6) いもち耐病性は「やや強」であるが、「たかねみのり」より弱いことから防除基準に従い、適期防除に努める。

6. 試験成績概要

品 種 名		岩手34号	いわて26	いわて21	たかねみのり
編 入 年 次		—	平成元年	昭和62年	昭和60年
早 中 晩 草 型		早生の早 偏穂数型	極早生 偏穂重型	早生の早 偏穂重型	早生の中 偏穂数型
芒の多少・長短 ふ 先 色 粒 着 密 度 脱 粒 難 易		極稀・極短 黄白 中～やや密 難	無 黄白 やや密～密 難	無 黄白 やや密 難	少・短 黄白 中 難
いもち 抵抗性	遺伝子型 葉いもち 穂いもち	Pi-i やや強 やや強	— — —	— 強 強	Pi-i 強 強
耐 倒 伏 性 耐 冷 性 穂 発 芽 性		やや強 強 中～やや易	やや強 強 やや難	強 やや強 やや難	やや強 強 難
品 質 食 味		中 上 上 下	中 中 中 中	中 中 中 中	中 上 中 上
試 験 場 所		県北 本場	県 北	県北 本場	県北 本場
標 肥	出穂期(月日)	8.3 8.8	7.31	8.7 8.10	8.8 8.11
	成熟期(月日)	9.20 9.25	9.14	9.22 9.29	9.24 9.28
	長(cm)	76.3 72.1	69.1	67.5 66.3	75.3 73.7
	穂長(cm)	16.0 16.3	17.3	17.6 17.6	16.8 16.7
	穂数(本/m ²)	583 538	500	528 493	554 592
	精玄米重(kg/a)	62.2 69.5	64.0	60.0 67.1	58.6 68.0

注) 県北分場は平成3年と4年の平均の数値。本場は平成4年の数値。